



「平和」と「成長」の修学旅行(6年生)

9月25日(木)・26日(金)の修学旅行では、6年生が充実した2日間を過ごしました。初日は雨模様でどうなることかと思いましたが、平和記念資料館を出た頃には、雨が上がり傘の出番はなくなりました。2日目は天気恵まれて暑いくらいでしたが、子どもたちは四国水族館やレオマワールドで、充実した時間を過ごすことができました。

出発式の際、私は、「平和」について考えながら活動をしめよう、ということ子どもたちに伝えました。学年主任からは、活動を通しての「成長」を期待しています、ということが伝えられました。

修学旅行を安全に、楽しく行うことができるのは、実は当たり前のことではありません。今の6年生が1年生の頃、新型コロナの影響で、バスの車内、目的地、現地での活動にはかなりの制限が掛かりました。そういったことがいつ起こってもおかしくはありません。

原爆ドームや平和記念資料館などを見学することで「平和」について学習をしました。それだけではなく、友達と楽しく過ごしたり、安心して散策をしたりすることができるのも「平和」だからこそです。普段の生活は、「平和」が土台にあるからこそ成り立っていることを、子どもたちには改めて感じてほしいと思います。

修学旅行では、子どもたちの役割があります。班長は時間管理、生活・食事係は部屋の環境整備や食事の世話、保健係は班員の健康観察、レクリエーション係はバスや部屋での過ごし方など、それぞれの役割を果たすことで「成長」が期待できます。普段の学校生活とは違う中で友達と交流する機会が増えますので、よりよい人間関係の築き方も考えていたので、この点でも成長しているはずですよ。

修学旅行を支えてくださった人は、たくさんいます。当然保護者の方の協力なしには活動できないことを子どもたちは知っています。また、添乗員さんやバスガイドさん、運転手さんは、子どもたちにとってこの2日間、身近な存在でした。さらに、ホテルの従業員さんや各施設で働いていた方々も、「私たちのため」に汗を流してくださいました。感謝の気持ちをもって働いている人たちを見ることが、キャリア教育につながります。「誰かが楽しく幸せに過ごすために」活動することも、「平和」や「成長」につながる大事なキーワードではないかと思っています。最高学年として「下学年のためにできること」を考え、実行していくことを期待しています。

子どもたちが2日間、笑顔で過ごす様子を見ることができたことが、私にとって大変幸せなことでした。

